

## 随想 三題

### 媒酌寸感

古林 喜楽

△関西学院大学教授△



教え子たちからたのまれるままに媒酌をつとめているうち、この七月五日のが、なんと第百十八回目になっていた。もっとも第百四回のは、予約のままで花婿が死んだので、この分は、私があゝの世へ行ってから約束を果たそうとばしてはあるが。

人は数の多いのに一応びっくりするようである。しかし私がほんとの仲人を果たしたのは、数えるほどしかない。大半は式の時だけのおすわり媒酌にすぎない。そうでなければ、日夜忙殺されている私なんか、到底できることではない。ただ数の多いこともさることながら、それよりも私が嬉しく思っているのは、皆が円満な家庭を営んでいるということである。これだけは、いささか自慢できる

のではないかと思う。これというのも、お見合いの結婚が、ほとんど無いからである。私が媒酌したこととはなんの関係もない。

いままでの私の経験からいうと日本においては、恋愛結婚が結局うまくいっている。本人同志がきめた以上は、親は反対しない方がよい。アメリカのように、恋愛結婚でありながら、離婚率が高くなるのには、日本はまだ相当の年月を要するであろう。

この春ヨーロッパへ旅をして、流石の私もたまげたのは、セックス・ショップが、本通りに堂々と立派な店を構えていたことであつた。神戸でいえば、元町やセンタ―街である。それがしかも、ヨーロッパでは一番かいドイツのことなのだから、デンマークやスエーデンの様が思い知られたことであつた。私もついつられて中へ入り、パンフレットやら説明書をもらつて帰り、あとでゆっくり読んでみると、これは媒酌人にとって、便利な店である、いささか感心した。本や写真から乗用品・器具類に至るまで、一式が揃えられてあつた。夫婦の和合について、媒酌人が入れ知恵をしなければならぬようなときに重宝である。最近、このような必要を感じる新婚さんが、ときどき出てき

ている。

●結婚式も、だんだん移りかわつてゆく。

本人同志やら友人たちが設営したものは、愛情のこもった実になるわしい披露になるのだけれども、親が立派なホテルで催すものには、ピンボケのものが多いい。かつては来賓祝辞ほどんどのものはなかった。新郎新婦をそっちのけにして、親の話ばかりをしている。誰の結婚式なんだと、となりたくなるような思いをししばしばせられた。

ところが最近の披露宴のときの来賓祝辞は、本人を採用したときのことから入社後の動静について微に入り細をうがちつつ、新郎の人となりをあざやかに浮彫りにされた。今度は媒酌人のお出で幕なしというような祝辞であつた。

ときどき私は、日本でもばち媒酌の制度をやめてみたかどうかと思うことがある。

司会者さえしっかりおれば、仲人なんていらぬ。新郎新婦の紹介は、先生や同僚や友人たちの方が、うがつた話を面白くしてくれるからである。原稿を見ながらの紹介なんて、およそナンセンスであらう。日本の結婚式もこれからは相当急激に変わってゆくのではないか。

## 二度目の

## 初夜

寺尾 竹雄

ハクラフィット・デザイナーV



「よかつたらうちへ来ないか。これから帰るところだが」  
 「ええ……いまだどこ？」  
 「荒田町。相変わらずの二階借りだ」  
 「二階借り」それは二人にとってショッキングな事件への回想につながる。

あれはひどい年だった。六月中に雨を見ない日が五日とは無かった。そんな長雨の、梅雨の晴れ間を待ちかねたように喫茶店めぐりをしての帰り道、バツタリ、クロちゃんに出会った。クロちゃんは棒のように立ちどまった。半分泣いて半分笑った顔だった。二人はしばらくことばが出なかった。四年目の再会だ。  
 「久しぶりやなあ  
 ……」  
 「…お元気？」  
 それは過去になにごともなかったような二人の会話であった。歳月がそうさせたのかも知れない。

そのころ、24時間営業の喫茶店Bの常連であった私は深夜はもろろん、ときには朝でも昼でもネバる機会が多かった。そのころは長い髪がたつぷりあって、カスリの着物にはかまといういでたちで、昼は図案、夜は似顔画描きと当時としてはカッコいい若者だったのだ、店の女のコの間でも人気があった。クロちゃんもその一人だった(クロちゃんとはその店での愛称で、名は体をあらわしていた)。あれはサクラの花も散った晩春の一日だった。夜勤明けの朝からその日の夕方まで、私の二階の部屋で、十七才の青い果実を開いたクロちゃんは、その夜喫茶店へも出勤せず、家へも帰らず。どういうわけか蒸発してしまった(ということは、翌朝クロちゃんのおやじさんと、Bのマスターがどなり込んで来て、わかったことだが)。「うちの娘をどこへやった」「行き先を白状しなはれ」とかわるがわる攻められたが、身におぼえのあるのは原因のほうだけで、行先

については全く見当がつかなかった(あとになって友だちの家にかくれていたことがわかった)。結局、証拠不十分ということで二人は引きあげていったが、それから四年、クロちゃんとは会うこともなかった。

さて、私の家へクロちゃんが来た夜から、また雨が降り続いた。翌日も、次の日も。雨がはげしく雨戸をたたいた。それは、昼でも戸をしめて寝てたうえがな……といっているようであった。クロちゃんは「帰りたい、帰れない」といいながら帰るふうはなかった。あれは5日目の朝だった。前夜までの豪雨がうそのように晴れて久しぶりの青空から夏の太陽が照りつけていた。

自炊を禁じられているので、ふたりは食事のため荒田本通りへ出ておどろいた。湊川の氾濫でつぶされた家屋の流木が道にあふれ、目当ての食堂は流失してあとかたもなかった。

ときに昭和十三年七月五日、神戸大水害の朝であった。

それから三十二年。大衆食堂でビールを汲み交わしただけの夫婦は、けんかもせず、けがもせず、けんたい期も知らず、激動の昭和を生きて来た。それは長いアストロラマを見上げている夫婦のようでもあった。

ハカットもV



## 娘を

## 嫁がせて

田口 寛治

△神戸大学教授V



娘をとつがせた父親がその感想を書いた文章を、これまで

に何度も読んだことがあります。読むたびに、「なんだ未練として」と、あまり好感がもてませんでした。わたしは、そういう機会があっても、決してペンはとるまいと思っていました。

わたしにもそういう機会がこの春やってきました。決心しており、娘の結婚の前後も、そういう原稿の依頼はおことわりしてきました。ところが、式がすんでひと月、ふた月たつうちに、さまざま

うわさがわたしの耳に入ってきました。わたしが「式の最中に、身も世もあらず泣きさげんだ」とか「がっくりきて病気になった」とか「残り少ない頭髮が抜けおちた（白髪になったといううわさはないようです）」というたぐい。うわさを聞いたひとが、見舞状をくださったり、「なぐさめる会」を計画してくださったりということになりました。先日会った知人は「もう泣きやんだか」ときいてくれる始末です。

ひごろ、ひとなみはずれて涙腺が弱く、またひとりっ子の娘の結婚だから、さぞかしと推測されるのはやむをえないでしょうが、それにしてもデマが大きすぎるので真相（大げさすぎますね）を書きたくありません。

昨秋、縁談がととのつてから、今春の式までの間、友人知人にさんざんおどかされました。「あまり涙をこらえると、最後に奇声が出るよ」とか「蒸発だけはするな」というふうには。

だが、「子どもはどうせ親からは離れていくもの」という観念は十分にもち、その点だけは「さとり」に近い気持ちに達していると思っているわたしは、娘の結婚に「さびしさ」「悲しさ」を正真正銘あまり感じませんでした。娘自身も望んだ結婚だし、わたしは

ちには恵まれすぎたとさえ思える縁談だったので「これで親の責任は果たした」という気持ちでいっぱいでした。「花嫁の父」の悲愴感はありませんでした。

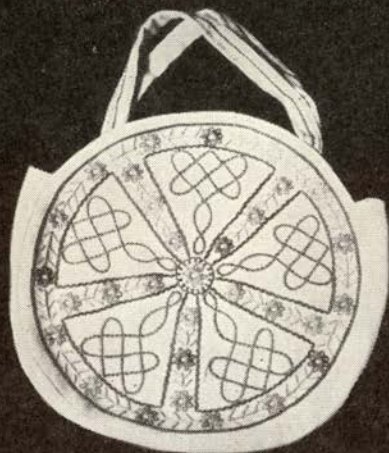
だから、式の間も、ケロッとしていたつもりです。「いろいろとわたしの百面相を期待しているひとがいるだろうに、こんなにケロッとしていいのだろうか。少しはご期待にそったほうがいいのではなからうか」と考えたりしました。

ところが、披露宴がすんで、最後に新郎新婦が相手がたの母親に花束を贈ることになりました。そばにきた新郎新婦に、わたしも握手をしました。そのとたんにおかしくなったのです。娘の手をにぎった瞬間「この手の感触は、この子が幼児のころ以来、しばらくぶりだな」というような思いが、からだをつきぬけました。もう涙がとまらなくなりました。

絶対にそれだけのことです。もちろん、現在は、家内とふたりでふたたび新婚（この原稿だけは家内が検閲するそうですから、こう書きます）のような気分です、毎日を楽しんでいます。どうぞ、お読みみくださったかたは「バカバカしい」と思っ、デマを縮小させていただきますと思います。

三浦レオニーさんは、正統派の英国刺しゅうを日本に導入した人として、関西ばかりでなく、日本の手芸界に広く知られている。この教室からは、現在手芸界で活躍しているショーン・ヤスコ、中尾悦子、西浜燕、宮飼青子、松本りゑさんなどが輩出、レオニーさんのまいた種を立派に開花させている。

ある集い  
その足あと  
★  
三浦レオニーさんを囲む  
欧風刺しゅうの集い



かわいい花刺しゅうの手さげ 三浦レオニー作

ニーさんは、「神戸に住むようになってから、美しい六甲の山々や神戸港を目のあたりにして何か意義ある仕事をしたいと考えました。戦後の荒廃の時に、若い人々に何の楽しみもないことを思い、刺しゅうを始めました。美しい日本の海や山に、ロイヤル美術学院で学んだデザインを生かして、図案や美しい糸の

はオリジナル図案と配色。「ステッチはあまり新しいものではなくてもいいです。ステッチで新しさを見せるというより、モダンなデザインをステッチのコンビネーションで見せることが大切です」とのこと。優雅で巧緻な技法を生かした独特な図案は明快でのびやかなリズム感にあふれ、レオニーさんの優しい暖い心をあらわしているような配色の妙にもヨーロッパの斬新な色彩感覚がうかがえる。名もない日本の草花、楠公さんの瓦、コンパクト、鉄屑にまで、レオニーさんの新鮮な目は注がれ、美を発見していく。

生徒さんたちは、まず先生の構図、配色を勉強して、基礎を十分に身にたくわえる。伝統の技術をマスターして初めて、時代にあった自分の個性が表現できる。

週二回、水・木曜日の稽古日に手芸のレッスンが開かれるレオニーさん宅は、松陰短大、海星女学院などに近く、瀟洒な外人住宅が建ち並び、異国情緒にあふれている。

その中で奥さんやお嬢さんが一さし一さし白布に色彩の見事なハーモニーをていねいに表現していく。現代のあわただしさからかけ離れたような優美な雰囲気をかもし出している。

英国マンチェスター市に生まれたレオニーさんは、ロンドン王立美術学院図案科でデザインを学んだ。当時、英国に滞在していた夫君の三浦昇三氏と結婚して来日したのが一九一四年。その間、ニューヨーク生活もあったが、すでに神戸在住三十七年になる。刺しゅうを教え始めたのは戦争直後のこと。その頃のことをレオ

調和を見付け出し、皆さんと共に生活のうるおいを今日までやってまいりました」と語っている。

糸や布に不自由したその頃から今日まで、レオニーさんの教えをうけた生徒さんは教えきれぬほど。免状をとった人だけでも二十四人、みんな刺しゅうで立派に生活できる腕を持っている。

レオニーさんの刺しゅうの特徴



Happy Wedding



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

- |            |                         |             |
|------------|-------------------------|-------------|
| ■本 社・工 場   | 神戸市灘合区郡内町1 (市立美術館東隣)    | TEL 22-1164 |
| ■三宮センター店   | 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) | TEL 33-2421 |
| ■さ ん ち か 店 | 神戸三宮地下街スイーツタウン          | TEL 39-3558 |



初秋の風の中では  
フェミニンな優しさで  
装ってください



美しさを創るオートクチュール

アスター ニュートン

神戸トアロード TEL (33) 1818, 1858  
大 阪 阪 神 TEL (361) 1201



## 価値あるロンジン

ロンジンは 万国博で10回もグランプリを受賞しているスイス時計界の名門です。

ロンジンの時計には ロンジンに与えられた数々の栄誉と一世紀にわたる伝統の技術が結晶しています。最も信頼され 最も名声の高い《ロンジンの時計を持つ誇り》そこに価格以上の偉大な価値が秘められています。

ロンジンは 大阪の万国博(スイス館)にも出品されていますから ぜひご覧ください。

ロンジンの本当のすばらしさは 当店で実際にお手にとってお確かめいただけます。



# LONGINES

特 約 店



## 美 甲 時 計 店

元町店・元 町 三 丁 目 TEL33-1798

三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL33-8798

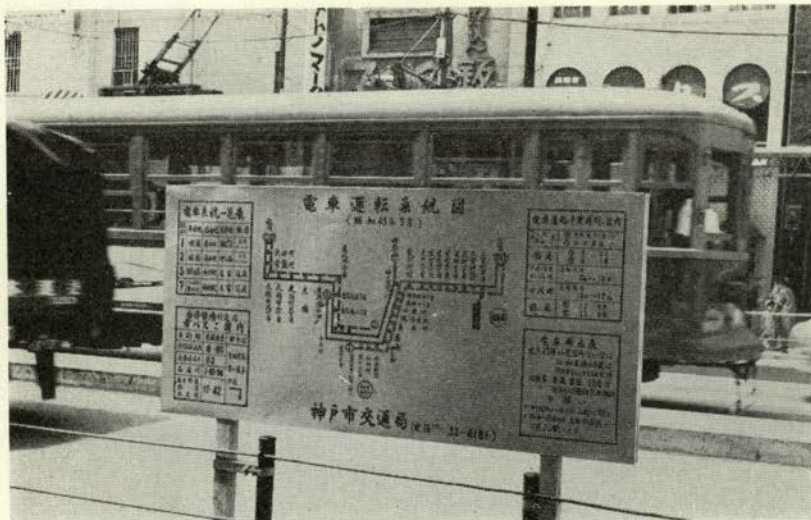


□れんさいずいそう

XVI

# 市電哀愁

林田 重五郎 (随筆家・写真も)



この運転系統図のさみしくなったこと (三宮で)

いま神戸についての質問のなかで、答えるのが最もむつかしいのは「神戸の市電は、現在、どこを走っていますか」であろう。上筒井から石屋川へ走っていたのがなくなった、と思っていると山手線もアツという間に消えてしまった。須磨線も姿を消し、平野線もあえなくなった。市電はどこを走っているのだろうか。

昭和四十五年七月末現在の運行図は写真の通りである。わたしもいろいろな感慨をこめて、この図面の前で立ちつくした。どうかみなさんも、この写真から過ぎし日の市電の栄光の思い出を、あらたにしていだきたい。

ついでに市電当局に電話で教えてもらったデータを書いておこう。七月末の保有車輛は四五台ピーク時には三三台から三五台を運転する。全盛時は保有二三五台、運行二〇〇乃至二二〇台、運転区間の延長三五キロ、これがいまは一〇・六キロに縮減されてしまった。

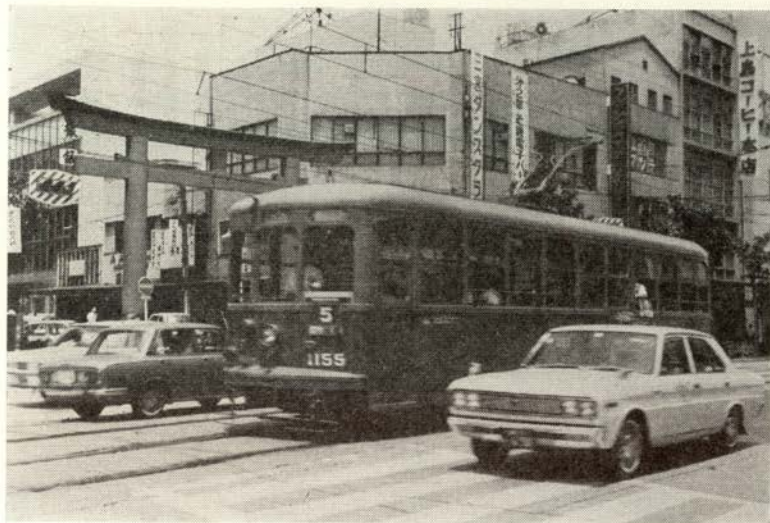
そして、たとえば三宮の生田署前で、朝夕のラッシュ時が七、八分おき、昼間の閑散時で十二分に一台市電が走る。一日計百回くらい、以前はこ

の線は、あとからあとから市電が来て、日に三百回は通った。寂しくなったものではある。

◇

交通論という学問がある。わたしも昭和五年県立高商二年のとき、これを学んだが、授業は新潟から着任されたばかりの須永秀弥先生であった。開講一番、大きな目をクルクルさせながら、おっしゃった言葉をいまでも覚えてる――

「神戸はいいですね、市電が早い。着く早々、市



車にはさまれて市電はうめく（三宮生田筋で）

電の全線を乗り回って来ましたよ。」

まことに神戸市電のスピードは、どこの市電よりも早かった。京都の市電はおっとりしているのと比較にならぬが、東京の都電、大阪の市電に比べても、ずっと早かった。スピード自体も早いに乗降する神戸市民の動作が、これまたスマートでテキパキしていたからだと思う。降客が終らぬのに乗客が乗ろうとするようなエチケツト違反は見たくとも見られなかった。降車まぎわにツリ銭をもらうようなのもいなかった。神戸市電の快スピードには、この神戸っ子気質も大いに協力していたように思う。

新聞記者になって、昼夜、市電に乗りまわった特に夜は東半分か、西半分の警察をコツコツと市電に乗って全部まわる。最もよく市電に乗った市民の一人であろうと思うが、加納町へ向うときの上筒井線、西行の山手線、海岸沿いの須磨線などいまでも体に思い出が残っているほどの快速ぶりであった。

タクシーはもちろん市電をさけた。あのころは市電の軌道内を走ってはいけないことに決まっていたように思う。いまは車の海の中に、市電が、あえぎながらヨチヨチ動いている。世の移り変わりとはいいいながら、あまりにも気の毒な姿ではないか。道路を車に明け渡して、次から次へと定年退職してゆくその姿に、一しずくの涙を流してもよいと思う。

◇

この快速無比の神戸市電がノロノロ運転をやったことがある。しかもこれは大きな事件に発展する。





市電こそ市民の足、市電を愛する人はいまでも多いが……（三宮で）

戦前の労働界では、市電従業員は花形の一つである。例えば東京市電の「東交」など、その尖鋭さと実力とは労働史に大きなスペースを残している。神戸市電従業員組合は昭和十二年四月、合法サボ——いまでいう違法闘争を三日間やった。規則通りの運転だから、まことにノロノロしたものであった。どこへゆくにもほぼ二倍の時間がかかった。要求は現今と同じ、物価があがるので昇給を、というのである。

この闘争に対して杉野電気局長らの当局側は平

田委員長ら幹部五人を、ちよう罰解雇にした。組合側はこれを組合弾圧だとして、当然、次の闘争を準備した。わたしは警察回わりのほかに労働記者をしていたが、ある夜、葺合署へ夜勤にゆくと特高の労働係のHさんが宿直で「布引車庫の雲行きがおかしい、君はどう思うか」との話。布引車庫……なんというなつかしい名であろうか。組合は各車庫を中心にして組織を固めていた。「こんどは昇給などちがって、金額の大小で妥結するものではなく、復職か否かの二つしかない。大変な争いになると思うが……」この意見に同感して、それから補町六丁目の神戸労働会館にあった組合本部をずっとマークすることにした。

七月五日夜、果然急迫して来た。六日午前一時四十分、ゼネストの指令が出た。Hさんのおかげで、六日付朝刊は特ダネになった。地元の新聞の号外が、この朝刊の配られたあとで神戸にまかれた。

組合本部で徹夜して兵庫突堤にかけつけると、指令通り、職場をはなれた市電従業員たちが淡路航路に乗り込んで、元氣よく洲本へ向って行った。市電は一部の残留組や監督で動かされたが車輛は半減だった。

しかし戦いはHさんの予測通り、イエスカノウの妥結点のないものであり、しかも七月七日は芦溝橋——新しい日本の大波にのまれてしまった。洲本籠城の名案も十分戦果を見なかったのである。

敗戦のあと、県会市会にも社会党からたくさん当選した。その議員のなかに、例えば中ノ瀬幸吉さんといった往年の市電従業員組合の幹部の名を見たときは、本当になつかしかった。

□ ずいそう □

# 神戸と私

矢内原 伊 作

え・松 本 宏

東京で育ち、戦後京都に移り住んで二十年近くになる私にとって、神戸は非常に縁の深い街とはいえない。ときおり訪れて東京や京都とは異なる雰囲気を感じ、ごく一部の、それも表面的なところだけに触れてちょっととした気分転換をはかるための街、といった程度のつながりである。したがって神戸を語る資格はないのだが、このちょっとした気分転換が私にとっては貴重なものである。で、私は神戸を訪れるのがたいへん好きである。

太平洋戦争がはじまる直前のころ、私は京都で下宿住いをして学生生活を送っていたが、陰気で閉鎖的な京都の空気になじめなかった私は——それは必ずしも京都のせいだけではなく、自己のなかに閉じこもっていた青春の閉鎖性の故であり、また重苦しいのしかかっていた時代の空気の故でもあったが——ときどき神戸に遊びに行くのを楽しみにしていた。さいきん必要があって学生時代の日記を読みかえしてみても、思ったよりもしばしば神戸に行っているのを発見した。元町にウイ



ナという名曲喫茶があって、京都からわざわざそこに出かけて行って音楽を聴くのが学生だった私の主要な関心事の一つだったらしく、古い日記にはそのことがしきりに出てくる。「阪急電車が神戸に近づくときのあのなんともいえない明るい解放的な感じ——それは南フランスの海辺を思わせる」などと書いている。こう書いたときは南フランスの海辺がどんなところか実際には知らなかったのだが、その後コート・ダジュールを訪れて、私は右の感じが誤っていなかったことを確かめた。この感じはいまでも変わらない。いつでも神戸は私にとって明るくハイカラな街である。

山が海にせまってすべりおりている、その傾斜地に細長く横にのびている神戸の街の特色は、なんといいってもその山が白く乾いた山であり、海が外国航路の大きな港であることから来ていると思う。東のほうから神戸に入る場合、山から海につながるそのたたずまいを見るには、上のほうを走っている阪急電車が一番いいことは私の古い日記



にもある通りだが、もっといいのは船が港に入ることである。私は戦後京都に住んでから、用事で神戸に行くのに、時間の余裕がある場合には時折この方法を用いた。大阪の天保山まで行って、別府行き、あるいは高松行きといった船に乗り、一時間半の船旅を楽しんで神戸で下船するのである。先日かねてから親しい阪神間に住むある中年の奥さんと雑談をしていたとき、たまたま東京、京都、大阪、神戸といった各都市の住民の気質の相違といったことが話題になったことがある。その奥さんは神戸よりも大阪のほうが近いにもかかわらず買物には神戸のほうに出かける、といった神戸びいきの人だが、その奥さんによると、新幹線などに乗っていても、東京の女性、京都の女性、大阪の女性、神戸の女性は表情や服装ですぐにそれぞれの見分けがつくというのである。私には一向そういう見分けはつかないのでそのときには反対して議論したのだったが、観察の鋭い女性ならば見分けがつくのもかもしれない。この奥さんの結論だけをいうと、洋服の着こなしが最も洗練されていて、表情がそれにふさわしく品がよくて明るいのは神戸の女性だということになるのだが、これは彼女がはじめから神戸びいきだからであらうしかし、神戸の街を歩くと、のびのびとして明るい感じの女性を見かけることが多いのは事実である。朗らかで屈託がない。これは現代の日本では稀な美德である。

神戸と私の縁はそれほど深くはないと最初に述べたが、私の父は質実剛健をもって有名だった昔の神戸一中の出身で、父が少年時代をすごした神戸の空気は何かの形で私の家庭にも流れていた

筈である。その上、私を育ててくれた母——私の生母は私が五才のときに亡くなり、父は再婚したのだが——は阪神間の住吉の出身で、神戸の人といえるかどうかは知らないが、神戸的な雰囲気をも身につけていた。ハイカラで明るく屈託がない。父は家庭のなかではたいへんきびしく、子供だった私などはいつもびくびくしていたものだったが、そんな父のきびしさをやわらげて家庭を維持してきたのは、母の神戸的明るさによるところが多いのではないかと思われる。父がガミガミ怒ると母は神戸弁でこたえる。父もつりこまれて神戸弁になる。神戸弁でやりとりしているうちに父の怒りはしずまって笑いが生まれる。そんな情景を私は子供のころなんども見たような気がする。とすれば私もまた神戸の恩恵を大きく蒙っているわけである。

私の妻はお尻が重く、あまり外出しないほうである。しかしその妻も、神戸に行こうか、というところでも一緒に出かける。娘も神戸ならばいつでも行きたいという。この二人はショッピングが目的なのだが、車の通らないあの元町通りの商店街を一軒一軒のぞきながらぶらぶら歩くのはそれだけでも結構楽しい。船で港内を一巡して碇泊している船を見るのは一層楽しい。こんな風にしてきたら私はまた神戸に行きたくなってきた。



矢内原 伊 作 氏  
＜法政大学教授・哲学＞

□インタビュー／小原会館・小原流芸術参考館設計の清家清氏にきく

# 本御影で小原城を築営

阪急御影から深田池を廻って、九重坂の斜面にある小原会館に、新しく芸術参考館が七月二十三日竣工した。静かな松林の麓に、御影石と幾何学模様のタイルプロックが、たくみにくみあわされ、日本的な美しさにモダンな感覚が加味された建物。地階、一階、二階と、小原豊雲氏が長い間折りにふれて集められた南海土俗資料、ペルシア、北南米の古代土器、染色品などに初代・先代の中国陶磁類も加わり、総数はほぼ五千点。今後もどんどん補充されるだろうから、家元のエネルギーすべてが花の世界における創作の糧として集められたもので、アーチストにとっても、神戸人にとっても、ユニークな蒐集品に接する場ができたことは喜ばしい。

当日、オープンを祝って芸術参考館へ多数の人々が、九重坂を登ったが、設計の清家清氏（東京工大教授・工学博士、建築家）が神戸二中（兵庫高校）出身ときいて、この小原城築営のエピソードや神戸感をお聞きした。白いリネンのスーツに、エンジのネクタイがダンディな清家氏は、「この仕事が始まったのは昭和三十年頃、家元が東京で展覧会を開かれたときディスプレイをお手伝いしたのです。どういうわけか建築家なのにお声がかかりましてね。私はその時、材木を生のまま使って、高島屋へ持ちこんでやったのですが……。それ以来、初代の記念館、家元会館、家元のおすまい、そして今度の参考館と、ちょうど私のベースにあった十五年間に四作という速度でデザインが進んだから、文字通り会心の作になったといえるでしょうか。何度かこは暴風雨のために、山崩れのあったところで、今では、深田池のところまで

基礎づくりがしてありますから、六甲山が崩れたって、こはきつと残っていますよ。この山崩れで現場から御影石がゴロゴロできたんですよ。粒選りとはいえないけど、御影ででた真正正銘の本御影。記念にもなるとハブニングで現場で採った石を積みあげたわけです。

この石屋さんにおもしろい競輪好きのオッサンがいますね。お金を渡すと競輪に行ってしまう。ところが、マジメな弟子がいてこつこつ積みあげているのがいるんですがね。実際にはオッサンの方が上手いんです。仕事を始めると骨身を惜しまんのですな。たいてい下の方に大きな石を置いて、上に小さな石をおく、オッサンはそうじゃなくて格好の良いところに積む。競輪好きのオッサンを、だまぐらかすか、だまぐらされるか、職人さんとの共同制作だから面白いですよ。こはオッサンの積んだところだと一目でわかりますね。

蘇鉄の木も、電信柱のように根を切って、家元が、奄美大島から持って帰られたものでね。家元はもともと園芸学校の出身なので、植物学はお得意なんだが、こういったアドリブや共同製作が、この建築には非常に多い。建築は明和工務店、家具は不二屋さんで、みんな神戸っ子だったのも成功の原因でしょう。

まあ、これだけ広い山を、小原流の発展にともなって一連の作品ができあがったのですが、せめにくい九重坂を、一の丸、二の丸と小原城づくりをやったという感じで、まだまだ今後の拡張も計画されているので、芸術参考館は、その中のひとつの句点ですね。これも、初めは参考品のお蔵のつもりだった。だから収蔵庫が陳列館になったので保存のための冷蔵庫と誤っていただきました



すね。保存には冷暗所が良いわけで、保存のことを考えても、見物人のことをあまり考えてない。それで冷房はあっても暖房はなしです。たいてい、作品が一つ出来るとハイサヨナラで終りだけれど、ここはいつまでもつながらがあるので、私にとっては大変楽しみです。何といっても小原さんだからできたのですよ」

神戸二中のご出身で神戸にはお友達も多いでしょう「須磨に住んでいましたね、東須磨小学校から神戸二中へ行きました。その頃は、板宿と大手の境ぐらいに住んでいました、いまでもその頃の家が残っています。家から、そうれん道を通って五番町の二中まで通っていた。お天気の良いときは五位の池の上の山を越えて通った。途中山の中に育英商業とキチガイ病院があったが森の中で首つりなどあってこわくってね(笑) 別軍博資先生に絵を習っていましたが、神戸二中から芸大へ行ったの

は、小磯良平さん、東山魁夷さんの次が私、三人目で、これは私の自慢の一つ(笑) 後から芸大へ入ってくるのがない点ちよっと淋しいですな。二中時代は非行少年で活動写真を観に新聞地へ行ききましたね。友達に福原の桜筋に家があるのがいて、そこに制服と鞆を置いて、ちようど具合がいいんですよ。二中の名簿を見ると同級生が五〇人戦死していますよ。この福原の友人も死にました。須磨寺の菊人形もなつかしいですね。戦前の神戸は、領事館も、船会社も、貿易会社も本店が神戸にあったから、昔の神戸は日本の中でも独立性を持っていたよ。今は大阪の附属都市になってきてしまった。昔は日本の神戸、世界の神戸だった。神戸港はヨーロッパを向いて、横浜がアメリカを向いていましたよ。

神戸の都市計画は山をつぶして海を埋めてるんだがプロジェクトのかいのが、神戸っ子らしくていいね。しかし、もう少しス

マートにやれば、昔ながらの神戸の雰囲気が出るのに、何となくガサガサして、水もまずくなりましたね……。

万博ですか？

スイス館と国連館と専売公社の設計と建築に加わりましたが、国連館は場所が悪いのか、行ったという人が少ない。また行かれたら、ぜひ見てくださいよ」



左 難波俊作氏、中央 清家清氏、右 穴道洋一氏 小原会館建築のスタッフ。

あなたの美しいヘアスタイルと  
花嫁をつくる 美容室 エリザベス



**エリザベス**

畑尾 美久子

本店美容室 生田神社前新河南ビル2階 <33>8894  
 婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <33>3258  
 三宮店 三宮神社山側三上ビル2階 <33>4917  
 芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <2>4067  
 西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294  
 美容担当(東京初代遠藤波津子直流)専属結婚式場  
 生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉  
 学園・蘇州園他

お慶びの日に

夢を結んだ  
幸せの門出  
二人に言祝ぐ  
老舗のお引菓子



ウエディングケーキ ￥ 3,000～10,000  
 三つ盛お引菓子 ￥ 750～1,700

★ご予算に応じお気軽に御相談ください

神戸にそだって 70年



元町3丁目 TEL ㊟2412～5  
 さんちかスイーツタウン TEL ㊟3455



□ 神戸港の姉妹港

# ロッテルダムだより

小泉 康夫

△月刊神戸っ子編集長▽

アムステルダムから急行列車で一時間、ロッテルダムに着く。ヨーロッパの鉄道は駅の構成もわかりやすく簡単に汽車に乗れるようになっていて乗り心地もさすがに結構なものである。

アムステルダムからロッテルダム間は首都ハーグをはじめいくつかの駅に停車する。駅はそのたまたまいも立派で町の歴史を物語っているようである。



ロッテルダム駅にて

車窓からの風景は、放牧の牛の群や、オランダの風車のある田園風景が楽しく快適である。

ロッテルダムを訪れ、街や港を短時間で観ようという厚顔しい計画、駅に降りるとすぐに、市庁舎を探す。

駅の近くの中央地区にある市庁舎を目指す、中世風のシックな建物、あれが市庁舎だというので急いだ。

ところが、その建物にはいった途端、親類縁者に囲まれた若いカップルが結婚記念撮影中なのである。

これは間違っと思ったが、その新婚のカップルの幸せそうな光景にひかれてカメラのシャッターを何回となく切った。

写真を撮ってから、市庁舎を探さねばと思ったが、意外にもこの建物は間違いない市庁舎なのであった。

一階のメインロビーで新婚のカップルを囲んでいたグループと市庁舎というイメージがどうしても重ならなかったのだ。だが、シティ・ホールといえば、よくわかる。一瞬、あれっ、と思ったが理解できた。

確かにこの建物こそロッテルダム市庁舎であった。私たちが訪ねる、ロッテルダム市のバックス広報部長さんはこの三階におられたのである。

神戸市のご好意もあって、私たちの訪問を待っておられたバックス広報部長は早速、ロッテルダム市に関する都市計画、都心部の再開発計画資料から港湾の資料をどっさりと揃えて下さって、

「ロッテルダム港をご覧いただくためには四時間必要ですがどうしますか」といわれた。私たちにとって四時間という時間は大変だったがご好意にあまえることにした。後で思えば、要所、要点をキッチリ押えた見事な見

学スケジュールであって、それでもユーロ・ポートの一部分しか見学できなかったことになる。

だから、観光客たちが訪れるポートタワー（ユーロ・マスト）さえも割愛しなければならなかったから、いかにユーロ・ポートが巨大な港湾設備をもっているか驚いたのである。

つまり、ユーロ・ポートの片岸を往復するのに四時間ではなく五時間かかったのである。

だが、その間に適切な都市、港湾の計画室も案内いただき計画の進捗ぶりが言葉が判らない私たちにもよく理解できたし、その計画の徹底した進め方に眼を見はる思いがした。

ロッテルダム市のご好意で職員が案内にたつて下さりユーロ・ポートの片岸を車で走った。

そして、その規模の雄大さに驚嘆したわけだ。私たちのような門外漢でも驚くものだから、専門家がくわしく調



市庁舎のロビーで記念写真を撮る新婚カップル

査すればその凄まじいまでの大規模な港湾設備に圧倒されてしまうのではないかと思った。

#### ★猛烈計画のユーロ・ポート

神戸港が開港一〇〇年を迎えた記念祭でロッテルダム港と姉妹港の提携を結んだことは周知のところである。

このロッテルダム港はユーロ・ポートつまりヨーロッパの表玄関という意味の言葉が使われているが名実ともに世界一の港湾都市なのだ。

地図で見ても明確なように西欧を縦横に流れるライン河、ミューズ河、シエルト河の三つの大河が北海に流れる河口に位置している絶対に優位な立地条件がある。

この立地条件は、西欧諸国がほとんどそのヒントランドといっているほどのものであって、ロッテルダムはその立地条件を見事に生かして大胆な積極的な港湾投資を行なって現在の世界一の港をつくりあげてきたので、その猛烈な意欲と推進力は素晴らしいの一語につきる。

与えられたデルタを黄金のデルタ（Golden Delta）と呼ばれるまでに創造したのは、ロッテルダム市とその市民の努力によるものだと思われて、そのエネルギーの大きさに驚くほかなかった。

ロッテルダム市はまた神戸市のほんとうによりき理解者なのである。

私たちを案内して下さった市職員の人も現在の神戸港



ロッテルダム市庁舎





埋立地を見下ろすレストランから

の動きには実に詳しく、ユーロ・ポートが現在埋立を行なっている最尖端のところで埋立地を指しながら

「この地域の埋立は神戸市が現在、推進しているポートアイランドとまったく一緒です」という説明である。また、一驚したのは、現時点で一番活発に埋立てが行なわれている地域に展望がきくように丘がつくられていて、その丘にしようしやなレストランがある。

不思議に思ったのだが、これこそロッテルダム市が市民にその仕事の内容をそして動きをもっともダイレクトに説明するために設けられている設備だと知って、その見事な広報活動に最敬礼。そのレストランには自分たちの港を確かめようという人たちが賑わっているのだから、恐れいってしまう。そしてレストランからの展望だけで十分でない専門家や視察者には港湾の埋立事業の全容が説明できるように、美しい展示場があり専門的な技術の解説が30分もあればできるようになっている。



ロッテルダム市バックス広報部長

猛烈な意欲と積極性のなかに細心の配慮があれば説得力も倍加しよう、やはりそこに伝統の底力を感じないわけにはいかなかった。

この例を考えるなれば神戸市でも現在、ポートアイランド計画が進められているのだから、いい考え方をとりいれるということで、さしづめポートアイランドの一角なり展望できる場所に市民とともに創造する港湾といった視点で市民を説得でき得るような設備を考えていいのではないかと思う。

市民との対話が十分に行なわれない事業はやはりなんといわれようと片手落ちのそしりはまぬがれない。

#### ★世界のショッピングセンター

ダイナミックな港湾づくりのロッテルダム市はまた、手際のいい都市中央部の再開発ぶりを見せている。この町づくりも世界の話題を呼んだというのだから立派なものである。レインバーン・ショッピング・プロムナードがそれである。このショッピングセンターの特色はなんといってもレインバーン（環状歩道）と呼ばれ、車道がないことである。最近、日本でも歩道の休日開放で大変な話題をまいたが、ロッテルダムでは魅力的なショッピングセンター、レインバーンでは一切自動車類をシャットアウトして計画されていて、ゆつくり人間がショッピングを楽しむ雰囲気をつくりあげている。



レインバーンショッピング・プロムナード

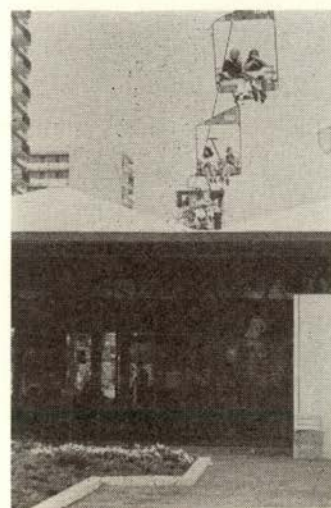
ニケーションの場をこしらえるか苦心しているのであって、すこしは野暮ったくなくても憩いの場を楽しい場を提供しているのは神戸のショッピングセンターも見習ってほしいことのひとつである。

このレインバーンを歩いていると、賑やかな娘たちの一団がふと私たちを見返って写真を撮ってほしいといった。O・Kをして娘さんたちを撮して送るべき住所を聞いたらUSSCとあった。レインバーンともなればやってくるお客さん達も世界的だと感じた。

面白いのはこのショッピングセンターをとり巻くようにリーフがぐるぐる廻っていることだ、若い人たちがちゃんとカッブルで乗れるようになっていく。

野次馬的なことでは人後落ちない私たちがだから早速このリーフに乗って見たが、高いところでは30mも40mもある大きなリーフで折柄の風にあおられて、結構ゆれてぶらぶらするから景色がよくて満足するよりもリーフにしがみついて恐しさをまぎらわすので精一杯だった。失敗して落ちたら歩道があるばかりだから正直こわものだった。

いづれにしても、神戸港の姉妹港ロッテルダム・ユーロポートはいまも前進を続つけていて頼もしい限りである。神戸港も日々進歩しようとしている。とくにロッテルダムでも注目しているポートアイランドを神戸市がどのように立派に完成させるか大切なところである。



レインバーンをとりまくリーフ

それに感心したことは、その建物ではショップはほとんど二階建てであって、ショーウィンドウもカラフルで美しい。このレインバーン・ショッピングセンターの中心に巨大なデ・ドゥーレンがある。ここは国際会議場にもコンサートホールなどに使用されている。そして、ショッピングセンターのまわりには高層の高級住宅がならんでいて、上手な都市計画の見本のようにいわれている。

レインバーン・ショッピングセンターはあちらこちら歩道の中央部にカフェテラスがあり花壇があつて趣きを見せている。オランダ名物の野外人形劇も賑やかに人を集めていて、決して気取りすぎた店がならんでいくわけでない、そこにはどんなにして人間らしい暖かいコミ





ネクタイの

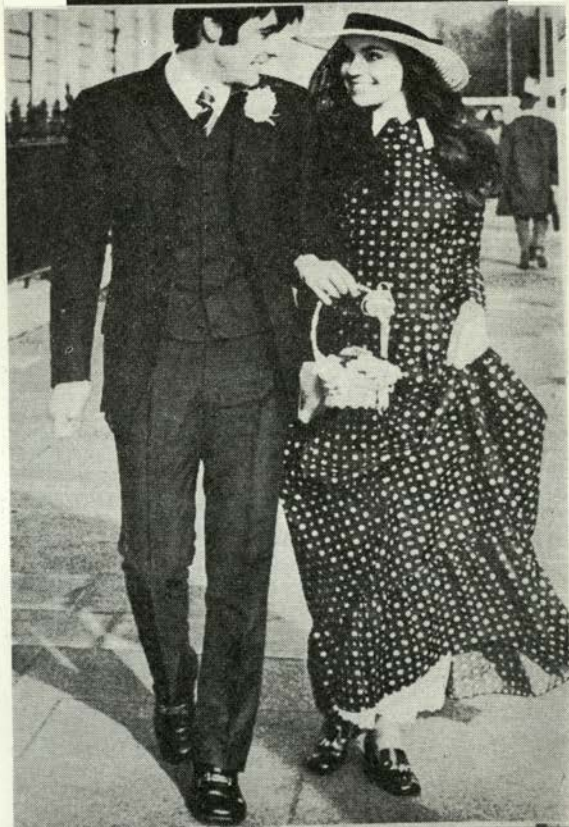
**元町バザー**

神戸・元町1丁目  
TEL (33) 1401

★仮営業所は山側向い

東京 **東急百貨店**  
渋谷本店・日本橋店

その日の装いは忘れられぬ思い出



**O-SHIBATA**



**柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話 573-5298 (代)

渋谷店/東急本店・電話 462-3409 (直)

日本橋店/東急日本橋店・電話 211-0511 (代)

(5階和装名家街)

(内線294)

## 多様化時代に変身する 男のシャツ

●大和屋シャツ

'70秋冬展示会

9月25日～10月11日

国際店にて



紳士シャツの店

大和屋シャツ

■国際店☆カスタムシャツのアトリエ〈月曜定休〉

神戸国際会館1階 TEL25-0220 AM10時～PM7時

■三宮店☆紳士シャツ専門店〈月曜定休〉

三宮センター街 TEL33-6956 AM10時～PM8時



経済ポケット

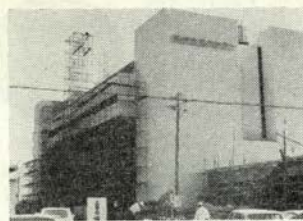
ジャーナル



★住民の住民のための  
“西神文化センター”

神戸市西農業協同組合が神戸市と協力して進めている“西神文化センター”の建設工事は順調に進み、八月末に完成。

同センターは、神戸市垂水区伊川谷町潤和一〇五八第一神明道路ぞいにある。一階は同農協が事務所に使うほか、西神地区一帯を受持つ消防署が新設される。二階は同農協の情報センター、電子計算室、有線放送機室のほか、保健所の出先機関が入り、三階は農協直営の総合結婚式場、また六百人収容できる大ホール



完成した西神文化センター

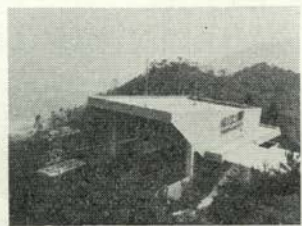
ル一、中会議室一、小会議室を設け、地域住民の集会場に利用。四階は神戸市立図書館分室を設けるなど、新興住宅地（地域住民全体）の文化・行政・産業の総合センターを目ざした新しい試みは全国的にもめずらしい。

★日本一長い

六甲有馬ロープウェイ

四十四年四月に会社（六甲有馬ロープウェイ株式会社）設立。巨費九億五千万円をかけた、六甲山頂を越えて湯の町有馬まで、全長五千三十二メートル日本最長のロープウェイが完成。

コースは、現在六甲ケイブル山上駅を出発点とし、東へ千四百三十四メートルに天狗岩駅、そこから北へ回転展望台わきの地点にカンツリー駅。ここまでは表六甲線。カンツリー駅から有馬駅までを裏六甲線とし、神戸から有馬まで三〇分。四季を通じて、瀬戸内海の景観、夜は千万ドルの夜景が楽しめる、新しい観光の



運行を開始した六甲山上駅

動脈として人気を集めよう。

運賃は、山上駅から有馬駅まで大人四八〇円、小人二四〇円。

★上島珈琲本社

高槻総合工場を完成

上島珈琲本社（資本金五千万円、上島忠雄社長）は八月三日、高槻市辻子に鉄筋四階建て延べ二千五百平方メートル、総工費約五億円をかけて新工場を建設。同工場では、月産約三十三トン金額にして三億五千万円の荒びきコーヒーを生

産、九月から業務用に加えて、一般家庭用荒びきコーヒーを新発売する。これまで、家庭用荒びきコーヒーは、一部で店頭売りされてきたが、インスタントコーヒーのように量産化して一般に売り出すのは同社が初めて。

新製品はアルミ箔で包装され、コロンビア、ブルーマウンテンなど七種類、いずれも一個二五〇グラム入りで価格は四百円程度、業務用荒びきコーヒーでは全国の一七％のシェアを持つ大手業者だけに注目される



完成した UCC 高槻総合工場

★ K O B E オフィスレディ ★



大堀真由美（20才）

竹馬産業株式会社 専務秘書

大堀さんは、「・・・さんが、どこどこへ出張するから切符を買って来て」と言われると、買った切符に何時発の列車だと到着時間までメモをして切符を届けるという、他人に対する行きとどいた気持とウィットに富んだお嬢さんです。兵庫区在住 42年神戸市立神港高等学校卒